

八代目・山崎喜作氏と山崎家資料

明治23年(1890)生まれの八代目の山崎喜作氏は、戦前の学生時代から始めたテニスの名プレイヤーとして名をはせました。

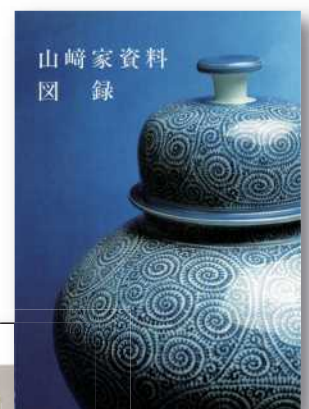
新聞社主催のトーナメント大会で優勝するなど、戦前の日本テニス界に大きな足跡を残します。数々の試合で得た優勝カップなどは戦時中の金属供出で失われてしまいましたが、蔵の中にあった数点だけが奇跡的に残り、今に伝えられています。

中野区の文化・教育・スポーツへの多大な貢献だけでなく、東京庭球協会名誉会長なども務めた功績を評価され、昭和55年(1980)に名誉都民の称号が贈られました。

昭和60年(1985)、惜しまれつつ亡くなりました。生前、自宅に設けてあったテニスコートを資料館の用地にと中野区へ寄贈。あわせて江戸時代の建物も含む自宅と代々伝わった品々も寄贈されたため、「山崎家資料」として展示や研究に役立っています。



山崎喜作氏



山崎家資料図録